

先進地に学ぶ

行政視察報告



行政視察研修 って何？

行政視察研修とは、常任委員会や会派で先進地の例に学び、本市に生かすためや、個別の課題での学習活動などです。

常任委員会は、1人8万円の予算が生まれ、今年度は1回視察研修しています。

教育会館事業・食育推進事業・障がい者自立支援（施設）

文 教 福 祉 常 任 委 員 会



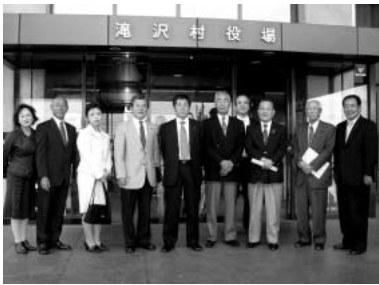
大野市役所にて

10月7日～9日、豊橋市・大野市・飯田市を視察しました。豊橋市教育会館は、コンサートホールや女性会館・労働会館・勤労青少年ホームなど、「ライフサポートとよはし」という総合施設の中にあり、教職員の研修業務を市独自で行

い、自主教材の開発にも力を注いでいます。大野市では食育の基本理念を「食守」と定義し「食を守る・食で守る」取組みを推進、個人としての市民・地域・家庭・生産者・学校等、行政がそれぞれの立場で積極的に関わることで一体となった食育推進体制を構築しています。飯田市は、家族との中で生活しながら社会参加、在宅が基本の自立・就労を目指して、やさしくサポートしている施設の姿勢が感じられました。

企業誘致、行政経営品質向上、市街地活性化

政 策 総 務 常 任 委 員 会



滝沢村役場にて

10月7日～9日に八戸市・滝沢村（岩手県）・秋田市を視察しました。八戸市の企業誘致については立地奨励金、創業奨励金、雇用奨励金の三つの優遇措置

を活用していました。滝沢村は「村」として人口日本一（5万3900人）。「幸せ地域社会を目指した行政経営理念」を制定し「人・地域・自然の共生」の確かな将来像を描き、地方分権の時代を担う活力にあふれた行政改革に取り組んでいます。秋田市の中心市街地活性化基本計画は、平成20年に内閣総理大臣に認定されています。地方のパワーに触れ、「優秀な人材の育成が鍵となる」と感じた視察でした。

歩いて歴史と文化を感じる町、コウノトリの郷と駅前整備

ま ち づ く り 常 任 委 員 会



整備された福知山駅前

10月7日～9日まで池田市・豊岡市・福知山市の視察研修を行いました。池田市では「歩いて歴史と文化を感じるまちづくり」を策定して、駅周辺を中心に整備しました。「まちなみ保存

事業」「まちかどギャラリーパネル設置事業」等があり、市民協働のもと「自分たちのまちは自分たちでつくる」ことが必要であると思いました。豊岡市では「コウノトリも暮らすまち」保護運動が始まって50年、人工増殖に取り組んで40年、長い時間と苦勞とお金が注がれ、地域全体を蘇らせる取り組みは非常に難しい壁があると感じました。福知山市では交通バリアフリー法に基づく駅前整備事業を視察しました。

萩まちじゅう博物館・
下関環境みらい館・太陽光発電

クリーン・ネット21



大木町大溝小学校
太陽光発電の仕組みの図

10月19日、21日、萩市・下関市・大木町（福岡県）を視察しました。
残念なことに現在の萩のまちは様々な人工色で溢れ、商用看板が氾濫しています。情緒ある風景や景観が失われるのを防ぐため「萩まちじゅう

博物館条例」を制定し、市民と行政が一体で取り組んでいく点が参考になりました。

下関市では「資源循環都市下関」を掲げ、市民・事業者・行政の協働によって、学び、活用し、循環させていく取り組みが参考になりました。

大木町では、ゴミを出さない、バイオマスの活用、再生可能なエネルギーの普及を通して、これ以上子どもたちに残さない町づくりを目指しており、大いに見習うべきだと思いました。

市民と行政が一体で
取り組むまちづくり

市民環境常任委員会



須崎市役所にて

11月10日、12日の3日間、須崎市・上越市・新発田市の視察研修を行いました。
須崎市では、「花と緑のまちづくり事業」を平成7年度の花苗等の資材援助事業からスタート、現在は7つの事業を

実施。住民参加で花を育て花を愛する感性ある人づくりは、観光に結び付いているなど参考になりました。

上越市では平成20年4月から家庭ごみの有料化で、前年度比28・5%のごみ減量となりました。太陽光発電は平成10年度から市内小学校等13の公共施設に設置しています。

新発田市では市民との「共創」で20回も議論し、19年3月議会で、まちづくり基本条例が制定されました。取り組みの熱意が参考になりました。

“読まれ、親しまれ、役に立つ”
を目指して

議会だより編集委員会



研修会場にて（さいたま市）

11月18日、議会だより編集委員会は埼玉県町村議長会主催「平成21年度第二回広報研修会」に参加しました。
研修会は講義の後、講師から具体的にクリニック（診断・修正）を受ける形で進めら

れ、「ここのす議会だより第15号」のクリニックを受けました。

議会広報で大事なものは審議内容や決定過程である。「見出し」で引き付け、「リード」で要旨を示し、最後に「本文」を読ませる。

読み手は誰かを頭に入れていかに平易にわかりやすく書くかが大切である。等々、研修で学んだことを生かし、皆様に親しまれる「議会だより」を目指し、これからも挑戦してまいります。

ユニバーサルデザインの
公園と校庭の芝生化

党公明



大社小学校の芝生の校庭で

10月20日、22日、米子市・松江市・出雲市を視察しました。
米子市の弓ヶ浜公園はユニバーサルデザインの遊具導入段差のない通路、車椅子でも利用出来る公園でした。ワ

クシヨップによる利用者の目線で設計されています。

松江市オープンソースラボ事業は、プログラミング言語という世界的に広がるソフト開発を地方から発信する新たな地域ブランドを目指して事業展開が行われていました。

出雲市大社小学校の校庭は7000㎡の全面が芝生化されており、鳥取方式と呼ばれるポット苗移植法は安価で維持管理も容易などの長所を持ち、本市の公共施設でも導入可能な内容でした。